

子どもの遊びにも流行がある。

最近子どもたちの間でおこなわれる遊びを見ると、テレビから仕入れたと思われるものが圧倒的に多い。

月光仮面ごっこ、スーパーマン、赤銅鈴のすけ、をはじめ、けいかんごっこ、チャンバラ、どろぼうごっこ、などもその影響をうけている。

男児も女児もいっしょになって、きのうのテレビの動作をまねしあっている。登園した子どもを放っておくとき必ず現れるのがこれで、子どもたちの遊びから、きのうのテレビ内容がわかると思われるほどである。

このような遊びは、子どもたちには、とにかく楽しいものである。が、誰かをどこかに閉じこめたり、友だちをひき倒したり、首に紐をつけて犬のように引いて歩いたり、といった行動

をしているうちに、しまいにはけんかになってしまい、それが朝おこなわれると、とかく保育室の中は一日中ざわざわして、おちつかぬことになってしまうのである。また、動きの粗暴さ故に、言語が荒々しくなるということもある。

また、組木なども、ことごとく刀に使われてしまう。チャンバラごっこをするためである。

刀、チャンバラ——これは昔でも子どもが好んでする遊びではあった。が、朝早く登園すれば組木が獲れて刀が出来る、というところで、組木のとりあいが続く。そこで、「修繕に出す」などと行って、かくしてしまいうような結果になるのである。

こうなると、教育をうけもつ者としては、はなはだおもしろくない。

その解決はなかなか困難なことではあるが、今、かりにこの

ような遊びを、保育施設の門から遮断したいと考える。この場合、他の遊びを与えることによって、興味を他へそらさなければならぬ。朝、紙芝居やその他のものを用意して、子どもたちの諸注意をむけて、やらせるのもよい。また、教師が先頭にたつて鬼ごっこをして遊ぶこともよい。

いずれにしても、子どもの生活にそれほどまでに浸透している遊びであるから、これを善意に利用していくことが出来ればよいと思う。教師自らその中へとびこんでいくとき、これを秩序だった遊びに再構成できるかもしれない……。

それにしても、テレビへの興味には恐るべきものがある。そしてこれは、ますます増大しつつある。子どもたちは、その物語とか劇とかの主人公になりすまして自分を満足させていくの

であるし、その物語の結果において、正しい者が勝つということもよいことではある。が、人気番組の大半が残酷な経過をたどることににおいて、将来、子どもたちがどんな道徳性をもつだろうかと、気づかわれるのである。現在の多く、チャンバラや撃ち合いがなくても、子どもは喜んでついてきてくれるものなのである。

こういう現状から考えると、遊びを通しての社会性の指導に従来のより更に力を注がなければならぬことが痛感される。同時に、教育テレビのみでなく、一般のテレビの人気番組にも、きれいな画面にきれいな音楽や物語を盛ることによって、子どもたちの夢や想像力を自由にひろげていってくれるようなものが増すよう、願うのである。

×

×